



第42回

西日本菊花大会閉幕  
 内閣総理大臣賞に  
 大輪の部 保田直宏氏 (福岡県京都郡)

西日本最大の規模を誇る菊花の祭典、西日本菊花大会(主催)宗像大社菊花会・宗像観光協会、後援(福岡県他)が、先月二十二日を以て盛大裡に終了した。

この大会は当大社の『昭和の大造営』を奉祝し、昭和四十六年に第一回大会が開催され、今年で四十二回目となる。境内には九州各県、山口の菊愛好家約一〇〇名から、丹精込めて育てられた菊花が出品され、質量ともに『西日本』の名に相応しい規模を誇る菊の祭典である。

開催にあたっては、宗像大社菊花会を中心に宗像市商工会青年部、(社)宗像青年会議所、運送会社外多数の皆様方に御奉仕頂き、菊花の搬入・展示が行われた。



内閣総理大臣賞 保田直宏氏



12月祭事暦

1・15日 月次祭  
 午前10時 高宮祭 第二宮・第三宮祭  
 引き続き 宗像護国神社  
 月命日祭(1日)  
 巡拝(15日)  
 午前11時~ 総社祭  
 浦安舞奉奏(1日)  
 豊栄舞奉奏(15日)

16日  
 午前6時~ 古式祭  
 午前6時30分~ 御座  
 午前10時~ 鎮火祭

19日 松尾神社祭 午前11時~

23日 天長祭 午前11時~

31日  
 午後3時~ 年越大祓式  
 引き続き 除夜祭

余の滴

本年も残すところ後僅かとなった。今年「古事記」編纂一三〇〇年の記念すべき節目の年であり、各神話のゆかりの地では記念行事が行われ、各書籍紙面でも特集記事等が多く掲載され「古事記」を見直す機会に恵まれた。神道古典としても特に重要視される「古事記」は元明天皇の和銅五(七二二)年に撰上された現存する我が国最古の書物であり、上・中・下の三巻で構成されている。その序文によると第四十代天武天皇の詔により帝紀と神話や伝説の旧辞を舎人の稗田阿礼に誦習させ、それを第四十三代元明天皇の命によって太安万侶が撰録し、天地開闢より第三十三代推古天皇までを記した書物である。神話を含む我が国の建国の歴史を編纂した古典である「古事記」だが、残念ながら現在の教育現場では、余り重要視されていないようである。天武天皇の「偽を削り実を定め、後葉に流へむ」との詔によって編纂された「古事記」にこそ我が国の歴史・文化の基がある。神話は史実ではない、というような現代人の考え方や感覚でこれを避けるべきでない。歴史学者のアールノルド・トインビーは「民族の神話を学ばなかつた民族は、例外なく滅びている」と述べている。一三〇〇年の昔、古代の人々は何を考え、後世に何を伝えなかつたのか。現代に生きる我々はその思いと共に歴史の真実を見極め、正しく後世に伝え行かなければならない。(長)

遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
 第六十二回神宮式年遷宮

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
 フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
 フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市福元4丁目20 電話(0940)32-2567



十月三十一日、福岡県農業試験場園芸研究所花き部々長松野孝敏氏を審査長として、八名で審査が行われ、大輪・盆栽・懸崖・特作の四部門それぞれ厳しい出品基準・審査基準に則り厳正に審査された。

本年は梅雨時期の記録的豪雨、夏の猛暑などの天候不順により、菊作りにとって決して良い条件では無いものの、会員皆さんの努力により十月三十一日には色彩豊かな見事



らには観光ボランティアの皆様による境内案内なども行われた。また、恒例のキャラクター菊人形や、「さくまつり」「七五三」の菊文字で出来た特別奉納花壇も展示され、七五三詣での参拝者を中心に記

な菊花が境内に出揃い、多くの参拝者を楽しませた。

十一月十六日には、清明殿にて表彰式が開催され、賞状・トロフィーが各受賞者等に授与された。また、審査長の松野孝敏氏より審査講評を賜ると、出席者等は次年度への励みにと熱心に聞き入っていた。

期間中の境内では、例年の「菊みくじ」や勅使館を特別開放した「茶房」、観光協会による「いっぶく茶屋」を実施、さ



念写真撮影場所として賑わいをみせた。

本大会開催にあたり、ハウスの設営・菊花搬入等の奉仕活動に御協力頂きました多くの皆様へ、誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。



各賞、受賞者は下記の通り(敬称略)

内閣総理大臣賞	保田直宏
農林水産大臣賞	和田太義
文部科学大臣賞	野村剛秋
総務大臣賞	時田義光
法務大臣賞	重光由紀子
外務大臣賞	初井弘己
財務大臣賞	舩越順一
厚生労働大臣賞	白水晴治
経済産業大臣賞	社家間サツキ
国土交通大臣賞	関本和代
環境大臣賞	石原睦生
防衛大臣賞	豊原勇之
内閣官房長官賞	福嶋廣之
衆議院議員古賀敬章賞	生武静男
宗像大社宮司賞	古原正則
宗像大社宮司賞	坂本栄

※以下、受賞者につきましては紙面の都合上割愛させていただきます。



文部科学大臣賞 野村剛秋氏



農林水産大臣賞 和田太義氏

# 沖津宮・中津宮秋季大祭齋行

去る十月二十八・二十九日の両日に亘り、筑前大島に鎮座する中津宮、また、沖津宮遙拝所において恒例の秋季大祭

が厳肅且つ盛大に齋行された。この大祭は旧暦の九月十五日に齋行されており、島民の多くが漁業従事者である大島

東側には秋季奉納演芸大会の舞台が立派に設営され、境内は大祭の賑々しい装いとなり、祭典齋行を待つばかりとなった。午後五時、沖津宮遙拝所、中津宮に於いて宵宮祭が齋行

祭典は厳肅裡に齋行された。午後一時三十分、秋空の下恒例の「奉納演芸大会」が開催され、各演芸奉納者からは趣向を凝らし練習を重ねて来られた、舞踊・ダンス・カラオケ・寸劇等が披露され、その賑やかな雰囲気

清き秋の境内は神人和楽の笑い歓喜の声に包まれた。



中津宮 秋季大祭

島全体を挙げての大祭となっている。また、神賑行事として島内の各地区・団体より演芸の奉納もあり、毎年大いに賑わいをみせている。二十八日、早朝は降雨に見舞われ天候が心配されたが、昼前には雨も上がり晴れ間も見え出し、沖・中両宮奉賛会、同翼賛会、同敬神婦人部の皆様のご奉仕により社殿や境内の装飾、また、中津宮本殿

が祈念された。翌二十九日は早朝より小春日和の好天となり、沖津宮遙拝所にて沖津宮秋季大祭・大島の最高峰に鎮座する御嶽山々頂で御嶽神社祭・宮崎地区で厳島神社祭と祭員が各齋場に分かれ、其々滞り無く執り行われた。午前十一時、地元島民を始め島外より遠近の篤信者多数が齋行された。祭典は高向宮司が国家・皇室の弥栄を祈念する祝詞を奏上、次いで島民氏子を代表し、奉幣使の藤島正浩氏が祭詞を奏上された。続いて巫女が神楽「浦安舞」を奉奏し、次に宮司・奉幣使・参列者が各々玉串拝礼を行い、

## 平成の大造営

### 御造営奉賛会を設立

十一月十六日に開催された当大社責任役員会において、宗像大社御造営奉賛会を設立することが承認された。

拝殿の修復工事に併せ、「平成の大造営」として、沖津宮鎮座の沖ノ島から出土された八万点の国宝を収蔵する神宝館をはじめ、境内諸施設の再整備を長期的に考えており、本事業を推進するためにあたっては奉賛会を組織して取り組むことで合意された。

今回の御造営に関しては既報の通りで、当初の計画に従い各関係機関との協議を経て、十一月十二日に重要文化財辺津宮本・拝殿に対する「建造物保存修理国庫補助事業要望書並びに防災施設事業要望書」の文化庁への正式提出手続きを済ませた。

尚、宗像大社御造営奉賛会の発会については、当大社責任役員を発起人として年明け二月に設立される予定である。



氏子奉幣使 藤島正浩氏

# 沖ノ島を史跡部門、動植物部門から調査 宗像三宮の保存管理計画策定に伴う

世界遺産登録推進室 岡 崇 (後編)

二十四・五年度の二ヶ年にわたり国指定史跡の「宗像神社境内」と国指定天然記念物の「沖の島原始林」の保存管理計画を策定します。保存管理計画策定の趣旨については、九月号にも報告させていただきましたが、この号では、今年度、夏の調査と秋の調査を実施した沖ノ島について報告します。

あたり、沖ノ島のどこにどのような構造物、工作物、遺跡などがあるのか、また植生はどのような特徴があるのか、ねずみやオオミスナギドリの島に対する影響はどうかのかなどを把握する作業を行いました。

## ① 史跡「宗像神社境内」について

沖ノ島祭祀遺跡は、1/2000の測量図を作成しその

図の中に、直径40cm以上の樹木の場所を書き入れ、さらに、オオミスナギドリの巣の分布も入れて

遺跡にどのような影響を与えているかなどの調査を行いました。特に露天祭祀遺跡に与えるオオミスナギドリの巣の影響は深刻であり、今後、その影響が増えるのか減るのかを見極める必要があります。また一九五八年に調査された岩上祭祀遺跡である十九号遺跡の調査において、当時の写真を見ているのがわかりますが、今回の調査ではその根の直径がさらに大きくなっていることも分かりました。このように経年による変化についてもモニタリングする必要があります。

島全体については、事前に1/10000の航空測量図やレーザー測量図から人工物を読み取る解析作業を行いました。この図面を使って、解析の不明なところに関して現地での詳細な実地確認を行いま

した。島の北側や南西側に残る旧日本軍の戦争遺構があることは分かっていますが、今回、砲台跡や弾薬庫など具体的な位置の把握を行いました。神聖な沖ノ島にとって負の遺構として残る戦争遺構は、過去の暗い歴史に背を向けることのできない事実として刻み込まれています。この戦争遺構の取扱いについては、史跡等保存管理推進委員会などで評価をいただいた上で再度検討していきます。

## ② 天然記念物「沖の島原始林」について

一九二六年に指定された「沖の島原始林」は、第二次世界大戦中の島への影響など本場に原始林として保たれているのか

が問題となっています。沖ノ島はこれまでも言われているようにタブノキを中心とした自然林が広がっており、海岸斜面前面や鞍部、風衝の強い立地では、オニヤブソテツハマビワ群集などが繁殖し、さらに、風衝が強い海岸斜面では、ヒゲスゲなどを中心とした風衝草原が広がっているというところが確認されました。



図版第53・19号遺跡 側点設置



19号遺跡の今の状況



露天祭祀遺跡に与えるオオミスナギドリの巣の影響

夏



ヒコバエによるタブノキの成長

て生じたものだと考えられるのです。つまり、老木となったタブノキは台風などの影響で倒れるが、そのとき既にヒコバエや胴吹きによる新芽が出ていて、これが次の世代として成長し巨木となっていくというものです。このように考えると沖ノ島では太古の昔から破壊と回復が繰り返され、祭祀遺跡周辺も基本的には古代と変わらない景観が保たれていると考えられます。しかし、残念ながら原始林は戦争遺構によって完全に保たれていないことも分かりました。今後は影響範囲を図化していく予定となっ

ています。

「ドブネズミ」や「クマネズミ」の調査は、四箇所にトラップを仕掛けました。その結果、社務所周辺では、七十時間で六頭のクマネズミが捕獲され、沖津宮社殿周辺では、クマネズミ二匹(同固体の可能性がある)、ドブネズミ一匹を捕獲、黄金谷では、クマネズミ一匹とドブネズミ二匹、オオミズナギドリなどの卵を捕食している可能性もありますが、沖津宮など建物に明確な被害は認められていません。

今後の保存管理計画につきまして

は、今回の調査結果を踏まえ、本質的な価値を見出した上で、保存管理の基本的な方針や目標を立てていきます。これは、沖ノ島だけでなく大島の中津宮、沖津宮遙拝所、総社、辺津宮も同様で、御造営計画とあわせ整備活用について検討し、管理及び運営体制を構築していきます。今回の保存管理計画は、現時点での状況と過去の資料を踏まえた上で策定していきます。未来永劫、価値を損なうことのないように保存管理していくためには、みなさんの協力が不可欠です。

## 古式祭の御案内

八百年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。

- ◆日 時 12月16日(日) 午前6時
- ◆祭典 午前6時
- ◆祭場 宗像大社本殿
- ◆御座 午前6時30分～一番座(二番座 50名ずつ、五番座まで)
- ◆会場 宗像大社清明殿
- ◆御座料 1人：1,000円

※御座券は当日午前6時～販売致します。(例年午前5時30分位から多くの方が並び始めます。)



## 除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の「罪」・「穢れ」を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年を締めくくる祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

- ◆日 時 12月31日(月) 午後3時
- ◆場所 神門前

尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに「人形」(男 白、女 赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を、「車型」にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。



# 秋の神賑行事

神威は敬心によつて増す

## 少林寺拳法 奉納演武

十一月三日、午後一時より本殿横にて宗像市少林寺拳法連合会他による奉納演武が行われ、約三十名の拳士が日頃の鍛練の成果を大神様に奉告した。拳士による剛柔一体の迫力ある演武に多くの参拝者が足を止め感嘆の声を挙げていた。



## 第37回 清香吟社奉納吟詠大会

十一月三日、清香吟社による秋季奉納吟詠大会が開催された。

宗家・宗嗣益中翔山氏をはじめ、県内外より会員約五十名が参集し、清明殿にて各々日頃鍛えた自慢の吟詠を披露した。午前十時三十分、本殿にて正式参拝、会員一同による「吟道」の合吟が奉納された。献吟後、一同は清明殿へと移動し式典が開催され、永年斯道の興隆に寄与された濱田登美子氏に感謝状と記念品が贈呈された。



## 第39回 秋季奉納盆栽展

秋季恒例の奉納盆栽展が宗像大社奉納盆栽会(会長・石松重敏氏)により、十一月十～十三日の四日間にわたり本殿西側の境内で開催された。

黒松などの松柏盆栽を始めとし、この季節に相応しい山柿、姫林檎などの雑木盆栽や小品盆栽等、約四十点が出品され、参拝者等はその優美な姿に見入っていた。



## 第4回 博陽吟道会 秋季奉納吟詠大会

十一月七日、博陽吟道会による秋季奉納吟詠大会(協賛・吟道清吟会)が開催された。

開会に先立ち午前十時三十分、本殿にて正式参拝。博陽吟道会々長藤井陽月氏による献吟、博陽吟道会・吟道清吟会両会員による合吟が奉納された。

引き続き、清明殿にて開会、その席上、永年斯道の興隆に寄与された林大山氏・岡本剣山氏、坂本欣山氏に賞状と記念品が贈呈された。その後、各会員自慢の吟詠を披露した。



## 第39回 宗像本因坊戦

十一月十八日、当大社清明殿にて宗像本因坊戦(六・五段)、宗像大社奉納囲碁大会(五段〜初段)が開催され、宗像・福津両市から約一六五名が参集し熱戦を繰り広げた。

地区ナンバーワンを決める宗像本因坊戦は、高段者十二名によるトーナメント形式で行われ、今年には合屋香次郎氏が見事優勝を果たした。



# 平成25年 厄年一覽表

## 厄年

昭和51年	昭和48年	昭和47年	昭和46年	昭和43年	昭和34年	昭和29年	昭和28年	昭和27年	昭和25年	昭和16年	昭和7年	大正12年	生まれ年
後厄(女)	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	八方塞	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	八方塞	八方塞	八方塞	厄
37	40	41	42	45	54	59	60	61	63	72	81	90	満年齢
平成16年	平成8年	平成7年	平成6年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和61年	昭和57年	昭和56年	昭和55年	昭和53年	昭和52年	生まれ年
八方塞	前厄(女)	大厄(女) 八方塞	後厄(女)	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)	前厄(女)	大厄(女) 八方塞	厄
9	17	18	19	23	24	25	27	31	32	33	35	36	満年齢

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習ではありますが、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちで過ごしてください。

### 八方塞

はっほうふさがり  
陰陽道でどの方向に向かつて事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事を始める方は要注意とされています。



## 宗像大社 初詣

## 交通規制のお知らせ

### 期間

- 平成24年12月31日(月)  
午後10時から  
平成25年1月1日(火)  
午後8時まで
  - 平成25年1月2日(水)~1月3日(木)  
午前9時から午後7時まで
- ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

### 凡例

	宗像大社順路
	一方通行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交通信号機
	駐車場



#### ※主要地点から宗像大社までの距離

- ★東郷橋交差点から 4.1km
- ★神湊交差点から 2.0km
- ★日の里北口交差点から 4.1km
- ★瀬戸交差点から 3.3km

■公共交通機関をご利用ください

第六一六回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日×切



福津市

若木台

山崎 公俊

秋彼岸過ぎて木の葉はさはさはと散ることしげし鯉の池にも  
鯉の棲む池の水面を覆うように木の葉の散る秋の情景。  
三句のオノマトペが効いている。

宗像市 田久

田中 國廣

逆様に泳ぐ金魚のその他は特に変わららず卵も生みし  
変わった姿勢で泳ぐ金魚に感じる作者の思いが面白い。初句  
を(逆立ちで)、三句を(生態は)などとしてみても良いだろう。

うきは市 浮羽町

向 則正

大き口開けて叫べる笑顔の子赤き歯茎に白き歯揃ふ  
叫ぶ子供の口を丁寧に描写し、その子の元気さや健やかさ  
をよく表している。作者の子供への愛情が感じられる一首。

北九州市 八幡西区

豊田 光子

何ひとつ保証なき職の百姓女床漬守り病むこと知らず  
床漬は長く農業をつづけた作者の誇りなのだ。(床漬を守り病むこと知  
らざりき保証などなき百姓なりしわれ)と上の句・下の句を入れ替えてみては。

福津市 中央

池浦千鶴子

秋の夜のながきに思う父母を夢にも出ず逢うすべのなし  
なつかしく、逢いたいのに夢にも出てこない、せつない話だ。二句以下  
を少し変え(ながきに父と母思う夢にも出でず逢うすべなきを)とした。

宗像市 日の里

大和美由紀

かちかちと弾みし玉に心まで爽やかなれと大念珠繰る  
お寺の行事か、国東半島のお寺のそれを聞いたことがある。作者  
は大念珠繰りをしながらリズムカルな音に心が晴れたのだろう。

北九州市 戸畑区

田中ハツセ

秋の陽にピンクの芙蓉高く低く枝葉とゆるるを吾はたのしむ  
芙蓉の花の美しさを楽しむ作者。しかし(楽しむ)は言わずに感じさせる工  
夫を。二句以下(映えて)ピンクの芙蓉の花高きも低きも枝葉と揺れる(など)と。

福津市 若木台

野間 精一

犬を放ち遊歩道の真中で体操する主婦八頭身なり  
傍若無人なふるまいの主婦、八頭身というからきつと若いのだろう。  
作者は怒りながらも、そのスタイルの良さに見とれていたのでは。

福岡市 南区

井田有久衣

玄関のドアを開ければ木せいのはのかな香り四辺に漂ふ  
秋の香りのひとつ、木犀の花の香にうっとりする作者。このままではや  
や平板な感じがするので、結句を(われを包めり)などとしてはどうだろう。

宗像市 田久

巻 桔梗

公園で餌をもらひてマンションにかへりし鳩ははうきで追はる  
マンションの住人のような鳩が面白いが、このままでは人間らし  
過ぎるので二句を(餌をついばみ)、四句を(飛び来し)などとしては。

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

米俵かつぐ役者の腰つきに偽りがあり重さがちがふ  
役者の演技に異議を申し立てる作者は、実際に米俵を運んだ経験がある  
のだろう、腰つきに目をとめたところが良い。(偽りがある)と四句切れに。

宗像市 池田

森 龍子

履きもせぬ靴並べ置く独り居に訪問販売断り切れず  
一読し、一人暮らしに見えないよう用心に靴を並べおく作者と読んだが、再読  
して履かない靴を訪問販売で買ったのかとも思った。どちらだろう。

宗像市 東郷

山口 節子

節電と言ひつつ電磁調理器をすすめる会社電磁波こもるに  
電磁波調理器使用の台所が増えているが、勧められて違和を感じている作者。  
二句以下を(言ひつつ電磁調理器をわれにすすめる電力会社)などとしては。

宗像市 大島

杉田 禮子

お互いの物忘れ笑い合う日々の多くなりゆく七十路半ば  
物忘れも笑い合えるのは幸せだ。ところで笑い合う相手が誰なのか、分か  
るように詠みたい。例えば二、四句を(物忘れ夫と笑い合う日々多くなる)。

選者詠

歯の痛む夫に煮てをり芋と肉離乳食ほどいとやはらかく  
ウォーキングにさそへば夫が厭ひ言う「風はつめたく三日月怖ひ」

第五九〇回

俳句作品集

宗像市 日の里

石松 弘次

夕暮れを歩く野の道せみしぐれ

宗像市 多禮

早川 祥三

擡出て風ひとりじめ藪枯らし

宗像市 日の里

花田いつ枝

金木犀匂ふや近づくと放生会

編集後記

多くの観菊者、参拝者で賑わい、本年の菊花展も盛大に幕を閉じました。そして氣付けば師走、いよいよ寒くなり、熱燗の美味しい、忘年会の時期となりました。酒好きな自分には嬉しい時期ですが、氣を付けなければ... 二ついつい飲み過ぎて... 失敗しております▼ 記事神話の中でお酒にまつわる話が残っております。素戔嗚尊が八岐大蛇に「八塩折之酒」というお酒をたつぷりと飲ませ、酔った所で退治するという有名な段です。一三〇〇年も昔に、酒は飲んでも飲まれるな、お酒で失敗するなという事例が残っているのです▼ これから酒宴の予定が増える方も多いのではないのでしょうか。オコチの様にならないよう適量を守り、どうか良いお年をお迎え下さい。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒八一一一三五〇五 福岡県宗像市田島三三三

電話 (〇九四〇)六二一三三二(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚宗延・鈴木祥裕

制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円